

19/11/28 名古屋城質問

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

司会：それではただいまから始めたいと思います。

どなたか。そしたらですね、順番にいきますね。すいません。

女性からお願いします。マイクお持ちします。

参加者：瑞穂区で山崎川の桜塾の塾長しております河村です。今日は市議会で傍聴席にいました。昼からの特に。そのなかに跳ね出し工法というのがポイントだっということのを浅井議員が教えてくれたんです。

今回今の佐治様の説明の中にないので跳ね出し工法がポイントだっということなのか。教えてください。よろしくお願いします。

司会：はい。ありがとうございます。

早速ご質問。跳ね出し工法ということにつきましてどなたか。はいお願いいたします。

名古屋市：すいません。ご質問ありがとうございます。

はね出し工法という初めて聞く言葉でもあるかもしれませんが今現在ですね、現在の天守閣は戦後ですね鉄筋コンクリート造で造られていくということで、その基礎部分の一番下にあっですねケイソという基礎が入っておりましてその上にコンクリートの基礎すぐ上に基礎鉄骨鉄筋コンクリート造という形のものを作っておりましてその部分につきましてはですね、実際に周囲石垣があります。その下に石垣があります。

その部分には荷重がかからないような構造をしております。

それはやはり戦災で焼けました。石垣にもかなりダメージがあるということとあと今もそうですが、石垣は江戸時代から残っている石垣ということもありまして、かなり傷んでいるところもあるということもありまして戦後復元するときに石垣に荷重かけないということをしております。

今回ですね、木造で復元するということおきまして、石垣には荷重をかけないけないということを考えておりましてそのためにですね、それを荷重をを支えるということで、今石垣の中に鉄筋コンクリートの構造体を入れるということを考えております。

その構造体からケイソから基礎をつくりましてそこから石垣の中を通して広げるような形で張り出すような形を基礎を造るろうと言う事をしていきます。

議論の中でありますというような形の人を作ろうのことをちょっと言うただの人ということになりますとさせていただきますように、石垣の中に構造躯体あるいはその構造躯体をいれる為に石垣を取り外しということになります。

それがですね、やはりこの特別史跡名古屋城におきまして、より価値のある石垣というこ

とでそれをですね。

また外すあります石垣の中にそういった構造躯体を入れること自体がですね、やはりあの石垣にとって影響を与えるということですので、そういった形につきましてはやはりしっかり検討して考える必要があるとやはり調査をしっかりするようにした上で、石垣に対する影響を与えないようなことを考えていかなきゃいけないということで調査をしっかりやり文化庁あるいは地元の有識者の先生方に相談して決めなきゃいけないということを大きな課題であるという意味で今回跳ね出しという基礎を、工法をですね課題になったということでございます。

司会：はい。河村さんわかりました。よろしいですか。

すいません。続いていかがでしょうか。

参加者：南区から来ました鈴木です。今回の木造復元は総額が 505 億と決まっていたかもしれません。今行われている石垣の追加調査さらにはそれにたいして追加調査があるかもしれません。そういった費用は 505 億に含まれているかどうかそれがまず一点。

それから 2022 年から延期されたことにより、いろんな費用が上がっていくと思います。

例えば新聞報道されておりますように材木を保管するのに一年に 1 億ともいわれております。そういったこの先でくる費用、お金はこれは 505 億でなくて所謂、市税の方から出てきて工面するのかどうかということです。

それから最後、今年の 3 月だと思んですが、新聞テレビで 2022 年 12 月までにできなかつたら責任を取る、切腹をするということを市長が言われました。

まず、そういった大きな発言をされたその責任。市長が責任をとるということは辞めるとのことだということだと思えます。どう思うように考えておられますか。以上でございます。

司会者：どうも有難うございました。

505 億の予算。追加調査あるいは木材の保管 505 億以上だったら、それから市長の責任をとる。最初の追加費用からお願いいたします。

名古屋市：ご質問ありがとうございます。

今、ご質問ありましたように追加の調査あるいは工期が進行工期を延ばすのばすことによりまして、今もうすでに木材の調達を始めております。

その保管料がかかるということによりまして、費用が増えていくということを想定される場所ではありますが、例えば保管料につきましては実際には木材の乾燥費をですが機械乾燥を自然乾燥にすることによってその乾燥費用を縮減するとかいうようなことも含めまして、できるだけ追加が出ないような工夫をしていきたいということもあります。ただや

はりそういったところですね、工夫してもやはり追加の費用が出てくることもあります。ただその分につきましてもですね、我々が竹中工務店様と協力をしてこの事業を進めるといっていきたいといえるだけその 505 億円で納めるということでの事業は進めていきたいというふうに考えております。

司会者：続いて市長、お願いします。

河村市長：はい私は天守の復元ができなかったから切腹すると言ったんで

2022 年 12 月にできなかつたら切腹するとは話をしておりません。

そんなことはありません。嘘じゃありません。

工期は努力するのは当たり前のことであって、僕の言ったことが正しいことです。

いや違う証拠をだしてください。そういうことです。

もし木造復元ができなかつたら切腹するというのは切腹するぐらいの覚悟でやりますわということ、精一杯やります。

司会者：精一杯やりますということなんですが、ご質問の方ということなんですが。

いろいろご意見があると思うんですが、続いてはい。女性の方。

参加者：南区から来た主婦です。司会者の方に確認します。

これは時間にカウントしないでください。質問があつてその答えで意見が言えますか。それとも質問も意見も先に言わなければいけませんか。

司会者：質問と意見両方同時にしていただきたいです。。

参加者：同時にいうんですか。4 点ございます。

木造復元をしたお城の形は今のお城と同じですね。形です。

それからお金のことです。先ほどの方がおっしゃいましたけれども、すでに税金を使わない税金のことで当選した河村市長ですが税金はすでにどれだけ使われておりますか。

木材がいくら、その他にいくら。それから解体、解体っていいますが解体費用はどのくらいですか。

それから、日時が決まらない契約は無効であるということを経験の専門家に学びました。

だから竣工時期もわからないそういうものを材料買うとか寄付金を集めないでと提案をした私です。

6 月の時期に 2017 年の 3 月に突然チェックする議会が雪崩を打って木造になりました。

何故でしょう。それは、おかしいねの報酬とバーターしてるんじゃないの私達はいろいろな人から聞きました。そういう謎があるんです。

その後は6月に国内基準条例が出たんで決まってない許可されてない止めてくださいというお願いしましたが、決まった後8月にしか請願の内容を陳述することができませんでした。これが民主主義のない名古屋市です。

日程が決まらない契約は建築で結んではいけない。

いやはちゃんとつくで結んでいけない。もってのほかです。

それから木材は今誰の所有ですか。

最後、法のことです。建築基準法の例外を求めているんな関係になるんですけど建築基準法ができた他にも燃えない、首里城は燃えましたけれど、燃えないっていうことに対して何も市長は出てきません。消防法で許されるのか国交省ですか建築基準局、名古屋市にもありますが許可はいつ下りるのですか。

私の場合はずっと見守っていると市長さんが今問題になっている政治を私にしてはいけないって言うところに触れているように思うんです。

どうしても河村さんの前に耐震が決まっていってつい最近までその先ほどの議会が雪崩を打つ前までは耐震が決まっていたんです。ずっとやらない。今の耐震性がないないというけれど耐震性はないんです。なかったからやることになってたのがやってないんです。

耐震が終わってれば大阪や熊本と同じように今、見事な美しい名古屋城をたくさんの方が観ることができる。それをさぼっていた。こういうふうに行き詰まってどこの方も見通しがないときは初心に戻って今の城を大事にする私たちの主婦では暮らしが大変。

そんなことやってもらっては困まる。何を現をぬかしているのという声が渦巻いています。有識者と話すといいましたがそれは市民でない方がいます。私たち市民は意見を聞いてもらえません。

2万人アンケートの中で木造は1500人ぐらい賛成だっただけです。パブリックコメントでも大多数の人がきちんと反対理由を言いました。市民の声に耳を傾けない河村市政は災害時代の市長が災害ではないか。市長が壊すのではないかと思います。

司会者：はい。ありがとうございました。

4点質問がございました。

まず復元したお城は現在と同じ形かということなんですか。いかがですか。

あるいは税金を今までどれだけ使ったのか、解体費用にどれだけかかるのか費用の問題。それから日程の決まらない契約は無効ではないのか。最後に耐火あるいは耐震がそれがどうなっているのか。最後に現状の城を残した方がいいのではないかということです。

河村市長：木造復元されたお城は文化庁でいう歴史的建造物の復元という基準に従ったそういうジャンルの僕で言えば本物の建物であるということでございます。

司会者：はい。いかがでしょうか。

名古屋市：これまで税金がいくら使われてきたかということにつきましては誠に申し訳ないんですけどもちょっと詳しい資料を持ち合わせておりません。

この金額につきましては、またアンケートの回答ということでホームページ上でお答えさせていただきたいと思いますが、現在までに基本設計、それから実施設計の契約。

木材の調達の契約とある程度の契約を進めておりますので、その内容に沿った形で詳しい金額はお示しさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それから先ほど建築基準法のお話がありましたが、確かに首里城の火災で本当の正殿が消失したというのはつい最近の起ったことですので皆さんもご記憶に新しいところだと思います。

ただ、建築基準法の適用除外を受けた場合にあっては、その安全性については現在の建物と同程度の安全性を確保しなければなりません。

したがって、木造建築物ですから当然燃えやすいのでいかに早い段階で火を消すのかいうところを中心に設計を進めているところです。

今名古屋城につきましてはスプリンクラー設備を設置をすると全フロアにわたって設置をするということを考えておりますし、その他消防法で求められている消防設備、これらについては法令に従って設置をしていくということを考えております。以上よろしく願いいたします。

司会：建てた後のお城は、復元したお城は現在のお城の形と一緒ですかという質問にはどうですか。

名古屋市：先ほど質問された方のおっしゃる通り、今の先ほど説明にあったように現在の天守閣は史実、昭和実測図と資料に基づいて外観を正確に復元しております。

したがって、木造で復元した場合にあってはその外観について大きく変わることはございませんが復元する年代がどの年代によるかによっては今のお城と若干見た目が変わるところもございますので、今まだそのどの年代に復元するかというところを、有識者会議でいろいろご議論させていただいてるところですので、また復元するお城の外観が決定致しましたら皆様の方にお伝えしてまいりたいというふうに考えております。

スプリンクラーを建物中に貯水槽に中につけるといってではなく敷地の中に貯水槽を設け、そこかポンプで水を運ぶという形をとらせていただく。届きます。

司会者：すいません。発言でしたらまた手を挙げて挙手をお願いいたします。他いかがでしょうか。

参加者：中村区から来ましたけど、1ページのほうを見てください。

1 ページです。お城の前に今できたやつあるでしょ。

お城の前に今できたやつが。本丸御殿でしょう。あれこの写真みたらあわんのですよ。

1700 年から瓦にかえたんで違うの。ほんでこれなんて瓦にしなかったの。本丸御殿の屋根だね。今藁でしょ。

もう一つやりますよ。17 ページ下のほうに階段がね、段差がめっちゃ低い階段が描いてあるじゃん。子供さんのやつを。子供さんもあれ下の茶色いやつ。

めっちゃめっちゃ低いでしょ階段が。ほんでね上の方の階段みて、俺も登ったけどね。これを例えばいろんなところが何かね、いろんなことをやるのかというのは俺ら何もわかんのだわ、どういうことをやるのか。具体的なこと何にも分からんのだわ、それをちょっと教えてくださいよ。17 ページ。階段できたやつ。

司会：はい、どうもありがとうございました。

2 つあって。一つは写真の表紙の写真本丸御殿。瓦屋根のどうなっているのか。

名古屋市：本丸御殿昨年 6 月に全面完成して公開させていただいております。

そういう本丸御殿の説明ついてですが、ご質問ということで今屋根がこけら葺きといいまして板を葺いてある状態です。おっしゃったように 1730 年代ですね。防火対策ということにして瓦に変えたという記録が残っておりますけれども。

それ以前はこけら葺きでしたので、今回の本丸御殿につきましては、上洛殿ができた寛永期という 1630 年ごろの姿に戻そうということでこけら葺きにしていることで今回復元をさせていただきます。

司会者：いつの時代の復元かということですね。

名古屋市：はい。すいません。

先ほどちょっと司会者の方から紹介にもれてしまいました森本といたします。

17 ページの階段体験館のイラストなんですけどイメージ階段のデザインですけども、確かにちょっと階段のイメージが低いというのはそうだなあと思います。

さて階段体験館で何をやるかということなんですけれども、現在はさきほどの説明で申し上げましたようにですね、国際公募をかけようと思ってまして、この技術の審査そして緊急などに使います。

また避難をする時の状況の実験、そういったものに使うつもりなんですけれども、それ以外にも往時の姿ををした 1 階から 2 階までの階段の部分をですね土日祝日には一般の皆さんに観ていただきたい、体験をしていただきたいという使い方をしてるところです。

司会者：はい。どうもありがとうございました。

ちょっと絵は優しすぎるようですが実際は避難も研究するために作って対応しますという  
ことなんですね

階段のところに何をつけるか？そう言うけど、

(会場の声：階段のところに何をつけるかわからない)

名古屋市：すいません 15 ページにですね先ほど説明ときに使わしていただきましたいろいろな場面にイラストと一緒に 4 つの分野を持っております。

これはですね、どのような方法ができるだけ多くの方にお城に登っていただけるかということで、今後公募をかけようと思っておりますので、今どういう具体的なものは…。

(会場の声：市民はわかっとらん。あんたらは分っておるけど)

名古屋市：申し訳ないんですよ。例えばですね、1 番。

歩行作業を補助する技術というのはがあって…。

司会者：そう言う事です。具体的に形がわかるように説明するものを作れと。市民が分るようながあるなというふうに書いてあります。あの言葉だけではわかりません。

はい。わかりました。事務局とも対応してくださるようによめます。

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

じゃ順番にいきますね。はい、どうぞ。

参加者：私は中区に住んでます下条といいます。今回は木造復元を非常に心待ちにしております一市民として述べさせていただきます。

今日の説明で文化庁でしたかね。よくわかりました。

ちょっと一市民でも気になるのは非常に石垣の調査ですかね。

これ膨大な感じがするんでね。このぜひ市民としてのお願いなんですけども、体制として石垣調査の体制が弱いような感じがしますんで。

特に名古屋市さんで強化をしていただいて。石垣部会さんとの調整というんですかね。

このことをもっと迅速に進めて欲しいなと思うんですよね一市民として。

細かい内容は私もわかりませんが、このいろいろ見ると時間がかかるんだよ。

します。

この石垣の話ってやりだすと結構多分時間がかかるないと、そうはいつでもですねそうは言ってもこれが早く着工しないとイケないと思うんで、ぜひそれも体制の強化というか。

そういったことをお願いしたいということと、それからもう一つはですね、時期的にですね、確かにわからないと思うんですけど、今から例えば 5 年ぐらいを想定しているのかね。

いやもうちょっとかかって10年ぐらいになっちゃうのか。一市民としてそんなに待てないですよ、私はせいぜい5、6年じゃないかと思うんですよ。

多分市民にアンケートをとれば6、7割大賛成なんですから、ぜひその市民の意見に沿う形でですね、ぜひ進めていただきたいなという率直な感想です。よろしくお願いします

司会者：今日は石垣調査いろいろだいぶん指摘されておりますので部分で、しかしながら迅速にそれを進めて早く実現してほしいそういう体制を強化するなりまとめまして対応してほしいということによろしいでしょうか。

名古屋市（村木氏）：石垣をどうするか。学芸員の体制が不十分であることは文化庁からも指示されております地元の有識者会議の石垣部会の先生からも指摘されておるところでございます。

そうしたことに対応するために今年の4月から名古屋城内に調査研究センターというのを設けまして、そこに石垣を調査するのか担当の学芸員等を配置いたしまして日々調査にあたっているところでございます。ただ遺憾せん学芸員の人数といたしましてまだ不十分というのはご指摘を受けておりますところでございます。

人数の問題につきましてはなかなか今の時点ですぐ増やしますと請け負えるお答えができないところですが今いる調査委員会の調査に関する学芸員の能力の向上というところは必ずやっていかなきゃいけないというふうに思っております。

石垣部会の先生やその他有識者の指導を受けながら日々能力向上に努めてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

司会者：はい。ありがとうございます。続きまして、はいどうぞ。

名古屋市：ちょっと、まだ答えてなかったと思うのですが。

石垣調整にどのくらい時間を要するかとお尋ねだったかと思えます。

それほど具体的に文化庁の方から一度交換してされているということについては説明したかと思えますが、個々項目ごとに実際どのくらい内容が必要かと石垣部会の方々とご相談しながら決めてまいりますので今の時点では具体的にいつまでかかるとまでは認識していませんというでございます。申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。

司会者：はい。ありがとうございました。ではお願いします

参加者（森）：そうですね。

私は名古屋城の問題についてこういった説明会とか、たびたびに参加させていただいております。説明に虚偽が多すぎます。

そして現在、今名古屋城の基本設計になり、これについて住民訴訟を提訴してます。

その中でも虚偽が多すぎる。

この真っ黒け。いわゆる情報公開請求で名古屋城の基本設計の文書、情報公開しました。

オンブズマンがね。約 3000 ページ。2 千何百ページ、ほとんど真っ黒です。

平成 30 年 5 月に情報公開されましたが、ほとんど内容が黒塗りでそのときの黒塗りの理由これが主には竹中工務店の個人的な情報、当然そうですね。それと竹中工務店さんの内部の公開されない電話番号、当然ですよね。それと竹中工務店さんの技術的な情報。

また、文化庁とのやり取りの中だ。率直な意見を言われちゃこまるで、そういった情報についても黒塗りにする。

それと工費。工費の積算の根拠、こういったものに関してもいわゆる具体的な原価ですね、原価につきましても黒塗りにさせていただきますと、こういうふうに明確に書いてある。

こういう情報であれば 2800 ページがほとんど真っ黒けども納得いきます。

今回この住民訴訟でこの資料と同じものを名古屋市側は提示してきました。黒塗りを外して。先ほどの黒塗りと全く同じページの内容です。

これが全編黒塗りが外れて出てきました。

いわゆるこれは関係法令チェックリストというページなんですけど、ここにですね、書かれているのは関係法令の窓口、例えば建設省とか国交省とか消防庁などそういったところの窓口の住所とか電話番号とか関係する法令の名前。

そういったものが書かれているだけであって、先ほどあったような。

非公開の理由が一つもない。ないですよ。何で黒塗りであったんですか。何で黒塗りであったかご説明いただきたい。

そして先程市長はわしは切腹する、できんかったら切腹するが 2022 年 12 月に期限を切っておらしたね、あんた。平成 19 年 4 月 1 日エイプリルフールだ。エイプリルフールだったから市長が会議で嘘を言ってもええんか。あなたは明言しとる。記者から完成時期っていうふうに聞かれてあなたは完成時期も当然だと言っとる。こいつが悪い。いい加減に辞めろ。あいちトリエンナーレで知事と遊んでりゃ。はい以上です。

司会：はいどうもありがとうございました。

市長、切腹の件なんですけど。

市長：正確に言ってもろわんといかんけど完成時期は 2022 年 12 月を目指してやると議会でもそう言いました。

だけど、切腹の話、切腹の決意でやるといったのは出来んかったら大変なので、木造復元がもしできんかったら私は切腹する決意でやりますよと申し上げたんです。

それは目標です。建築物ですからある程度目標作ったのよさちがないような事実は事実とどうかこれも行政やというような切腹の事実はありません。言ってます。

(会場の声：あんたね、自分で言いたいことの… 多すぎる。2022年12月言ってる、いってないとのやり取りあり)

司会者：はいはいじゃあもう一ついいですか。

名古屋市：すみません。黒塗りの件でございますが、当初お出しさせていただいたときは確かに全ページほぼ黒塗りの状態でお出しいたしました。

これはですね、まだ設計の途中、設計つか文化庁との調整だとか様々には事業が途中の段階でしたので。

(会場の声：基本設計は完成している文書について情報公開請求をしている)

名古屋市：おっしゃる通り。基本設計は完了しております。

確かにその基本設計の内容に情報公開請求をいただきましたが、この基本設計の内容というのはこれから文化庁と復元のためにいろいろ協議をしていくいわゆる基本設計の内容を含んでおりますので、そういったいわゆる手続き途中の物として黒塗りということを出ささせていただきました。ただ確かに今おっしゃったように基本設計完了をしております。

それから文化庁へ復元検討委員会資料、基本計画書を出そうと思いましたが、7月20日の時点で提出を見送ったろうというその結論を一回出しておりますので、したがって、一端文化庁とのお話、ここで一度復元計画についてはですね、出せなかったということになっておりましたから内容を改めて精査をして出せる範囲において黒塗りを外した形でお出しをしたということになっております。

司会：じゃ、他会場、ではいやりました。

ちょっと申し上げたいのであります。

女性の方です。

参加者：千種区からきました石黒と申します。現天守、今の天守閣は市民の機運の高まりによって再現されたというふうに書いてあります。

先ほどの会場の方のご質問では、南区の方はパブリックコメントでもアンケートの賛成の方は少なかったというご意見があったりとか、中区の方はほとんどの方は木造に賛成だと思っているというご意見だったけれども名古屋市の皆さんとしては今現在の木造復元について市民の機運は高まっているというふうにお考えかどうかなんかを探っていただきたいなあと思います。

また、市民の機運を高めるのが木造の復元をなんでやるのかとかその目的を市民のかたと

共有したり対話したりするために行うどんな事をやってこられたかあったら教えてください。

司会者：はい、ありがとうございました。市長。

河村市長：私は別に市民の皆さんを代表するほど立派な人間ではありませんけれど、僕が感じるころでは圧倒的多数の方が木造にしてほしいと。昔のかつての国宝 1 号で尾張名古屋は城でもつといわれた自慢のお城を造ってほしいと。図面があるんだってね。ならやりましょうやという気持ちで受け取っております。今のコンクリート天守の時にあいうことと言いましたけれど実は 23 年の 23 年

今の僕の誕生日の都市で中日新聞が調査しております。造ったのは 34 年ですからだいぶ前ですけどその時にどういうふうに造りますかという話で木造天守の方が 2 割多いですね、もうすでに。その時に。実は。戦後のあいう混乱期の時でも名古屋の人がやっぱりか嘗ての木造ですね国宝 1 号であったお城というものをのですね、物凄いプライドを持つとって、焼けちゃったんだけど本物をもう一回木材で造ってほしいなあという気持ちをもっとんだと僕は思っ取ります。

(会場の声：進行。木造復元に対するの意見はいわれるんだけど、それに対する反対意見いえないのか)

司会者：いや一応順番に挙手されている方の意見を聞く場所とされてるので。

(会場の声：今の河村市長の個人的見解じゃないか。市長とのやり取りあり)

参加者：すいません。名古屋市職員の方からご意見いただけますか。

司会：そうですね。機運を高めるために、市民との目的を共有するためにどんな取り組みをしてきましたかという質問

(会場の声：反対意見。現天守を守りたい人の意見を聞いていないじゃないか。現天守を守りたいという意見を聞いていないんじゃないかとパブリックコメントを何で 1 か月消すんだ)

司会者：ちょっと待ってください。

(会場の声：松雄さん、パブリックコメントを1ヶ月で消した理由を言えよ)

名古屋市：ちょっとはい天守台っていうのを自分に当てはめてきた1月なものですから、私どもも、やっぱり市の皆さんの地域については本当に大切だというふうに思っております。

ですからこの説明会もいろいろご質問をたくさんありますけれども説明会したように意識これ思っております、やっぱり広い意見をちょうだいしながら着実にですね、一步一步やっぱり実現をしりたいというふうな立場でございます。仰られましたようにまだまだ足りないないと思っております。

私どもの説明不足だというふうに痛感しておりますので、これから今ご質問ありますようにいろいろ部外のですね。そうしたやりとりの資料とかをなかなか出し切れないものですから、どんどん出してまいりますので。ぜひご覧いただきまして関心をもつただけるようになるようなればありがたいなあと思っております。

(会場の声：1分で。すいませんなあ。皆さん。

皆さんの中でも木造復元を希望される方が多いのもわかってます。確かに、だけれども名古屋市民の中には現在の天守あの日守、昭和34年。私達の父親やおじいさんが寄付を募って造った天守に対して思いを持つ人もいますよ。今木造天守の夢を復元したいとおっしゃいましたね。私はこういうことを路上でお話をしている時にあの天守はなくなってしまふのかと泣いて聞かれるおじいさんがいたんだ。そういう人の気持ちを踏みにじて現天守をコンクリートの塊と呼んで壊すのかこういう議論が一回も行われていないじゃないか。どうだ)。

司会：ちょうど1分でした。ありがとうございました。

はい。どうぞお願いいたします。

参加者：中川区から来ました。最初に市長は木造化は自分の夢だとおっしゃいましたけれども私は決して市民の夢になっていないと思います。

木造化が市民の暮らしが痛むことがないなら木造化賛成だということも多いでしょう。

でも先ほど質問された方もありましたが、本当に税金が投入されることはないのか。

今工期がどんどん延びれば費用が増えるって仰いましたけど採算もあうのかどうかその見通しもたっていないじゃないですか。

税金が私たちの暮らしを支えてほしいという切実な願いに

市民の人達の気持ちに応えられるような市政になってほしい。

そういうことに対して本当に木造化することが必要なんだろうかという点ではもう一度立ち止まって市民みんなで考える時じゃないでしょうか。

河村市長はそういう市民の合意や納得のないまま、そして石垣部会の理解も得られないまま突っ走ってきた。それで 2022 年の目標は断念に追い込まれているわけですよ。

突っ走ってきたことその他についてはまず市長は謝るべきじゃないんですか。反省すべきじゃないでしょうか。

もう一度、名古屋城どうしたらいいのか。市民みんなで考える時ではあるんですよ。木造化で引き続き突っ走るだけでなく一番の歴史的遺物は石垣なんですから。これを大切に考えればここに一番大切な視点があると思いますよ。だからもう一度木造化についてね、階段がどうのこうのというのありましたよ。史実に忠実なものを造ろうと思えばバリアフリーとの理念との矛盾はさけられないですよ。そういいながら理念的なものは出ているけれど具体的な解決策は何ら出ていない。これから世界的に公募するという話がありましたけれど、その見通しすらなんらないじゃないですか。慌てることはないですよ。もう一度どんな名古屋城にしたらいいのか市民みんなでもう一度立ち止まって今考える時じゃないのでしょうか。市長の反省を含めて求めたいと思います。

司会者：はいどうもありがとうございました。

市長：では私から言いますけど、私だけの夢じゃないですよ。

当然民主主義の世の中ですから 100%ということはありえませんが僕が感じているところではこれは名古屋市民の皆さんの夢だ。

木造に造りかえてかつての国宝 1 号に。名古屋のプライドをもう一度取り戻したいっていうのはみんなの夢なんだと。そりゃ 100%という意味じゃないですよ、という風に思っております。

やっぱり精一杯やってきたんですけど、さすがにこれほどまでの世界が始まって以来ですからこれは。こんだけの木造建築物をですね図面に従って復元していると。いろんな困難もありますけどですね。期限が延びていることもありそれは申し訳なかったと思っておりますけどこれはやっぱりそんだけの夢の実現だから、ある程度皆さん分かってちょうよというのは私の気持ちでございます。

司会：最後もう一方。どちらがいいかなあはい。

すいません。時間の関係でひと方にさせてもらいます。

参加者：緑区から来ました長尾と申します。私は、賛成なんです。

こういう会場に来ますとね、反対の意見が正論化しちゃってものすごく強く聞こえるんですけど今までの経路からという河村市長がこの案を皆さんを無視してやってるわけはありませんね。

市長に立候補して、賛成をそういったことを話題に挙げて名古屋城の再建をやりませんか。

市議員の会を開いて賛成多数で通っている訳ですね。なんかには反対という意見も当然あると思います。

何かを決死になってやろうと思っても必ず何%かは反対が出てきて当然だと思うんです。ほんで現在の工事会社竹中工務店さんね、で私は名古屋市の検定を受けましたのでよく知っておりますけれど、清須から名古屋に来たときにはね竹中工務店っていうのはものすごく功績があったんです。松坂屋もそうなんですけれど、そういったところが入札に通ったということでそれは評価してもいいと思うんです。

それと工事のことを言われますけれども私も工事のことを現役のころやってまして、結局檜木なんかを調達してすぐに建てるわけにはいかないんですね。

ある程度乾燥させて丈夫にしてからやるとか。そういったことも必要ですので、今のやり方か仲間でどんどん調達して行ってどうなんだとかそんなことをいうのは工事のことを全然知らない人の意見であって私は工期がだんだん遅れてきたということは、河村市長はもう一度期限が過ぎたってこれを期間内には今の現役の期間内にはたぶん実現しないので再度、市長に立候補して市意とっていただきたいという、そういったことで、ここまで来た以上はね是非やっていただきたいというのが私の意見です。

非常にこういうことをやろうと思うと賛否両論があって、全部 100%賛成でないとできないっていうなことだったら、全てことなんでも世界情勢の起きている事自体ができません。90%賛成だったって、あっても 10%が反対だってことになればね、何やっても民主主義の世の中通りません。

共産主義の中で強引にやるんだったら反対を押し切っているだけけれど、そういう訳に行かないもんだから、こういった説明会があって粛々とやってくってということだからやっぱり極端に言えば7割以上9割以上通ればOKだということを進めていっていただきたいと。GOサインが出た以上はやって欲しいというのが私の意見です。以上です。

司会：ということで、これご質問でなければご意見ということでよろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。時間が参りました。

多くの方にとっても 9 名の方からご質問いただいたわけでございますけれども、閉会の時間が参りましたので、最後に一言を河村市長より閉会に向けてのご挨拶をお願いしたいと思います。市長よろしくお願いたします。

市長：これはありがとうございます。寒になりましたけれども私はこんなもんですけれど、千田さんが石垣部会の千田さんが来てみえてますのでここにちょっとこちらに上がってきていただいてお話を頂きたいと思います。すいません。10分位は予定しておりますので。千田先生でございますので、よろしくお願いたします。

千田先生：千田でございます。今日は部会を代表してときているのではなく、はい。

やはり大変重要な会だと感じましたので個人として参りました。

ご紹介賜りましたように石垣部会のメンバーの一人を務めさせていただいております。今日の説明会、非常に丁寧に最近の名古屋城に関してご説明をしていただいたかなというのが率直な感想です。

これまでですね、名古屋城の整備に向けた計画ですね、うまく進まないのは石垣部会が反対しているからだという話が非常に多かったわけですがこれはですね、市長さんの話の中にもありましたように、文化庁側からこういったことをやはりやっていくべきであると指摘を受けた指導を受けたということが報告されましたが石垣部会にいたしましても、まさにそういったことをこれまでも申し上げていたということでごさいます。文化庁のですねそういった指摘につきまして、先般の今日に資料の中にもでておりますを確認しておりません 1月ですね。いろいろ市長さんと石垣部会のメンバーと話し合いの場を設けてましてその中ですね。まさにその中で文化庁が許認可権をもっています特別史跡の整備の計画ということです。

やはり国民共有の財産である名古屋城のですね本質的価値という言い方を文化財ではいたしますが、そういうところっていう石垣をしっかりと調査して、その評価をして保全をした上で整備していくといったそういう方針でこれからいこうということで名古屋市と石垣部会ですね万全に一致をしております。

ですから、そういった形でこれから非常に建設的にですね。基本的な調査をし評価をしていくことを石垣部会としても進めてきたというふうに考えております。実際すでに石垣カルテについては極めて勢力的に進めていただいておりますので、これは希望であります年度内にその調査が完成するのではないというふうに思うんです。

それから、もちろん文化庁からの指摘事項でもありました内堀その他の発掘につきましてはずで今進めていただいているところであります。

先般もその発掘現場の方を見学させていただいて、いろいろその評価、調査成果を観ての議論をさせていただいたところではありますが、そういった形で一つ一つですね、文化庁から求められている 110 点の整備の手続きについては順調に進んできているところであります。ですからそういったことで全体として今日ご質問にありましたが石垣のところもですね全体的にすについては一般すべきという私からそういったこと順調に進んできているですねそういったことで全体として今日のご質問の中にもありましたようにだと違うところもですねせままま長期間石垣しっかりして準備をしっかり石垣を保存したうえですね。

名古屋城の整備が進んでいく、石垣をどういうふうにこれから把握していくかについては一定の時間はかかる、そうならざるをえないことがあるんですが、

しかしですね今日例えば熊本城の石垣、私自身委員として様々な会議やその保全の議論に関係しておりますが一応保全していくんですが

なおいらっしやいませーんですね、議論されておりますが、なでなくて様々な方法がありますので、石垣の調査ですねけどさしてありますが、そうですね非常に長い間石垣の保全に

係るを戦力化を載せて見学会だしちょっと乗っかってるっていうことでもあります。石垣部会としましてもそうですね。今、あるいは全体を進めていくのかを念頭に置きながら名古屋市と一緒になってよい議論を進めていきたいと考えておるところでございます。どうもありがとうございました。

河村市長：意義深い石垣部会の皆さんともやっていきたいと思うところでございます。それでは僕からはありがとうございました。

司会者：以上をもちましてですね名古屋城天守閣木復元市民向け説明会を終了させていただきます。

アンケート用紙は出口で回収させていただいております。

またほかにご質問のある方はアンケート用紙にご記入いただければと思います。なお、駐車場の件でございますけれども、駐車場で出口での清算はできませんのでお帰りの際には劇場事務室にお立ち寄りください。

劇場の事業室で受領印章を受けてください。

なお回数券をお持ちの方や障害者手帳などをお持ちで減免手続きをされる方劇場事務室でお願いしたいと思います。

本日は長時間にわたりましてご参加いただきましてどうもありがとうございます。